

NCU ゲイバイセクシュアル男性を対象とした HIV予防の推進



Keywords

HIV感染症の予防、健康行動学、ヘルスプロモーション



金子 典代 准教授

所属

看護学研究科 国際保健看護学

専門分野

HIV感染症、AIDSの予防、健康行動学、疫学

所属学会

日本エイズ学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、

HP

<http://plaza.umin.ac.jp/ncu-gch/>

研究概要

HIV感染症の予防、セクシュアルヘルスをテーマに研究しています。集団レベルでHIVの予防を推進するためには、感染リスクが高いポピュレーションを見極め、その対象者に効果的な予防介入を継続的に実施することが重要です。

日本では、ゲイ・バイセクシュアル男性におけるHIV/AIDS感染拡大が最も深刻であり、彼らへのコミュニティベースの予防プログラムの立案、実施、評価に資する研究を当事者、NGO、行政、医療専門家、研究者のパートナーシップのもと行ってきました。

平成28-30年度の厚生労働省エイズ対策政策研究事業では、乾燥血液スポット法（指先にランセット針を刺して取った血液をろ紙にしみこませ検査機関に送り、スクリーニング結果をWEBで確認する検査手法）を用いたコミュニティベースでのHIV検査機会の拡大を行います。

国内外の様々なエイズ啓発資材 (コンドームのパッケージ例)



少しでも多くの対象に手に取ってもらえるようNGOがアーティストなどと協働してデザインし作成・配布しています

関連する論文

- Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama & Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV testing experience among men who have sex with men in Japan. AIDS Care (Accepted)
- Kaneko N : Factors associated with cervical cancer screening among young unmarried Japanese women: results from an internet-based survey. BMC women's health, 18(1), 2018.

今後の展望／実用化イメージ

通常の保健医療サービスが届きにくいマイノリティ集団にいかにかアクセスし、必要なサービスを提供していくは大変難しい課題です。

エイズ分野では、当事者、NGOが大きな力を発揮し、感染拡大の抑制に貢献してきました。この成果を目に見える形で残せるような、予防対策に資することができるような研究が必要だと考えています。



研究者からのメッセージ

エイズ予防の研究や取り組みにおいては、研究者、NGOや行政、医療、ボランティアの協働が鍵となります。

研究においても、メンバーそれぞれの専門や能力を最大限に発揮できるチーム作りを重視しています。

問い合わせ

産学官共創イノベーションセンター
(桜山キャンパス本部棟2階/事務局学術課内)
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
(名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ)
☎ 052-853-8309 FAX 052-841-0261
✉ ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp